

令和5年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

混住化地域における独自種豚造成に基づく豚肉の高付加価値化

○氏名又は名称 倉持ピッグファウム 株式会社（代表 倉持 勝）

○所在地 茨城県下妻市

○出品財 経営（養豚）

○受賞理由

・地域の概要

下妻市は、茨城県南西部、東京から約60km圏に位置している。下妻市の農業産出額は、令和3年度で120.7億円であり、うち畜産は61.6%の74.3億円であり、養豚が42.4億円とその大半を占めている養豚が盛んな地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

倉持氏は、昭和58年に先代から種豚生産経営を引継ぎ、一貫経営へ転換・規模拡大（現在、種豚200頭、肥育豚4,400頭出荷/年）し、平成21年に現法人を設立した。平成28年に食肉加工・直売所を開業し、地域と連携したブランド豚や6次産業化による経営多角化に取り組んでいる。

・受賞者の特色

（1）混住化が進む地域で周囲と連携・協調した養豚経営

自ら種豚の育成を行い、繁殖豚の外部導入を極力抑え、良好な飼養環境を整備・維持することで、豚の感染症対策を徹底し、農場事故率を3%程度に留めている。地域で生産される飼料用米の積極的な給与や堆肥の地域耕種農家への還元など耕畜連携に加え、悪臭・ハエ対策に取り組む、混住化地域で市民生活に配慮した養豚経営を実践している。

（2）ブランド豚生産や6次産業化の実現による経営の安定化

美味しさを重視し、独自育成した種豚から生産された肉豚の銘柄豚化を図り、付加価値を高めている。また、食肉加工・直売所を開業し、50種以上の精肉・加工品を販売するなど6次産業化も実現している。

（3）女性の活躍

農場職員5名の内1名が女性であり、繁殖部門で活躍している。食肉加工・直売所では、11名の女性が勤務し、販売、在庫管理を担当している。また、50種以上の豚肉加工品には女性従業員のアイデアが反映されるなど活躍を果たしている。

・普及性と今後の発展方向

混住化地域で周囲と連携・協調した養豚経営は全国養豚場の規範になると期待できる。今後の取組として、母豚の増頭、新たな加工販売施設の設置やHACCP認証取得を目指している。ご子息2名も経営に参加しており経営の継続性も高く、今後の発展も期待できる。